

## 聖なるお酒

泡盛は、多くの伝統的な沖縄の儀式や集まりに欠かせないものです。泡盛は御嶽と呼ばれる聖域や家族の墓前、各家庭にある仏壇に供えられます。また、結婚式でもふるまわれ、先祖を崇める夏の儀式でも重要な役割を担っています。

過去の伝統的な琉球の葬儀では、棺に入った遺体の上に泡盛を入れた小さな容器を置き、墓に安置しました。墓は数年後に開かれ、その泡盛を用いて洗骨の儀式が行われました。そして、骨を厨子に納めて墓に戻しました。時折、洗骨の儀式の一環として、墓に納められている数年間で熟成が進んだ泡盛が飲まれることもありました。今日でも、沖縄の葬儀の参列者は時々茶毘に付された親族の骨に泡盛をかけます。

沖縄で人気のある伝統行事のオートリ（御通り）は、琉球王宮の新年のお祝いの中で、王と貴族たちが順番に泡盛の酌をとったことから始まりました。数世紀を経て、この慣習は沖縄中で行われるようになりました。参加者は車座になり、順番に口上を述べて泡盛を飲みます。沖縄の大部分ではこの慣習は廃れていますが、沖縄本島から約 300 キロメートル南東にある宮古島は、今でも御通りで有名です。宮古島では、この聖なるお酒を飲むことは、先祖から受け継いだ文化への敬意の表れであるとともに、健康と友情の願いの体現でもあります。